



## 第11回琉大未来共創フォーラム

### ダイバーシティのない社会には未来がないという展望

令和4年8月7日(日)、講師にテレビ等でも活躍されている谷口真由美氏(大阪大学非常勤講師、大阪芸術大学客員准教授)を迎え、第11回琉大未来共創フォーラム「ダイバーシティのない社会に未来がない理由を考えてみませんか?」(共催:総合企画戦略部地域連携推進課)を、会場(人文社会学部文系講義棟)とオンライン(Zoomウェビナー)のハイブリッドで開催しました。

谷口先生は、大学教員のほか、これまで日本ラグビー協会の理事として大学や企業、官公庁とお仕事をされた経験から、意思決定の場に女性が存在しない現実や、女性をはじめとする少数者(マイノリティ)が、男性をはじめとする多数者(マジョリティ)の「なぜ?」という「多数派による特権的な問い」に常に応答を求められることに言及し、そうした状況には疑問を持つよう促されました。

また、女性教員の産休や育休にノウハウのない前任大学で初めて出産を経験した女性教員となった際、産後たった5か月で職場復帰された先生が「前例(サンプル)」として扱われてしまったために、「女性は産後短期間で復帰できる」と結論づけられたことに言及し、女性の出産の多様性を無視する職場の危うさを指摘されました。

少数者としての経験から、少数者が多数者の中に入っていきときには、味方や共感者、スポンサー(やり方を教えてくれる人)が必要であるにもかかわらず、そうしたサポートもなく多数者の中へ放り込まれるのが、今の日本のダイバーシティの現状であるとの批判的なご指摘もありました。



また、多数者の中で少数者をいかに認識するかがダイバーシティ実現の肝であることにも言及されました。例えば災害時の避難所のような、女性や障がいがある人、高齢者や子どもといった「少数者」の特性に応じた配慮が必要な場所でも同じで、たとえ当事者ではない多数者でも、少数者に対する想像力、共感力を働かせ、一番「しんどそうな」人の目線で考えることが、結局はみんなにとって良い環境となると説かれました。本来カラフル(colorful)であるはずの世の中が、今の日本はやはり男性一色の構造となってしまうので、さまざまな経験や背景をもつ人々を「仲間」に入れて、互いに支え合う社会を形成すべきと述べられました。

Equality(「平等(公平)」)とEquity(平等「衡平」)の違いについても、女性が上位職に昇進する際の試験を障がい物競走に例え、スタート時点から男性が優遇されるレースで、女性がハンデなく戦えるようにするためには本人だけでなく周囲が協力し、合理的配慮によってそれぞれが能力を十分に発揮できるスタートラインを整備することがEquityの実践であると説明されました。社会に共存する人それぞれの特性を考慮することが、「しんどい社会を変える解決方法」の一つであり、「ダイバーシティ」の実践が、皆が生きやすい社会をつくるための一歩になる、と締めくくられました。

質疑応答では会場参加の学生数名から積極的な発言があり、一人ひとりの生活の中でのDE&I(Diversity, Equity, and Inclusion)の実現を考える機会となりました。

※本講演は、本学地域連携推進課との共催で「琉大未来共創フォーラム」の一環として開催しました。



## 大学院医学研究科に初めての女性教授が誕生しました



山本 和子 教授  
(大学院医学研究科 第一内科)

1999年佐賀医科大学医学部卒業後、国立国際医療センター研修医等を経て長崎大学第二内科入局。米国ボストン大学博士研究員、長崎大学病院呼吸器内科講師等を経て、2022年10月より現職。

本学大学院医学研究科初の女性教授として、山本和子先生が令和4年10月1日付で第一内科教授に着任されました。今後、本学の若手女性研究者や女子学生のロールモデルとしても益々活躍いただけることを期待しております。

### ごあいさつ

はじめまして、2022年10月1日付けで大学院医学研究科 感染症・呼吸器・消化器内科学講座(第一内科)教授を拝命しました、山本和子です。大きな内科の医局を主宰するにあたり、重責を感じています。琉球大学と沖縄県の医療・教育・研究の発展のため、精一杯尽力する所存です。若人が夢を持って集い、リサーチマインド、国際感覚、ダイバーシティ感覚を身につけ、伸び伸びと育む教室を目指します。どうぞよろしくご挨拶申し上げます。

## オーガナイザー養成支援を実施しました

本学に在籍する女性教員を対象に、教員自らがオーガナイザーとして研究発表会やセミナー・シンポジウム等の企画・運営に携わる際、その開催に係る費用の全額または一部を支援する「オーガナイザー養成支援」を募集しました。

将来、学内だけでなく学外においてもリーダーシップを発揮できる人材の育成を目的としており、今年度も多数の応募がありましたが、厳正なる審査の結果、下記2名を採択しました。

### 【採択者】

照屋 典子 教授 (医学部)

FD シンポジウム「VUCA (ブーカ) の時代 看護に問われるリーダーシップとは」

日時：令和4年11月23日(水) 13:00～16:00 (終了しました)

高橋 美奈子 准教授 (教育学部)

研修会「日本語を母語としない児童生徒とともに学べる学校づくり・授業づくり」



### 開催案内 (全2回 ※いずれかのみ参加可)

#### ● 第1回研修会

「日本語を母語としない児童生徒とともに学べる学校づくりとは」

日時：令和5年1月21日(土) 12:30～17:00

場所：琉球大学50周年記念館

#### ● 第2回研修会

「日本語を母語としない児童生徒とともに学べる授業づくりとは」

日時：令和5年2月4日(土) 13:30～16:00

場所：琉球大学文系総合研究等 302-304 教室

参加対象者：学校教育関係者、子どもの日本語教育に関心がある方

参加申込フォーム：<https://forms.gle/BSmLBCFojeK3Eyy69>

参加申込締切  
令和5年1月13日(金)

申込等詳細についてはジェンダー協働  
推進室 HP でもご案内しております

## 琉球大学岸本遺贈基金寄付金「女子大学院生対象グローバル人材育成事業」

本学の博士後期課程及び専門職学位課程に在学する女子大学院生を対象とした「女子大学院生対象グローバル人材育成事業」を実施しました。

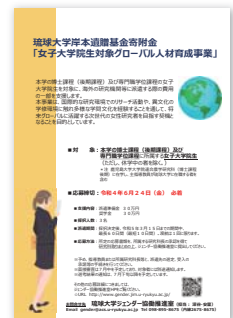
本事業は、琉球大学岸本遺贈基金寄付金における人材育成の一環として実施するもので、本学の女子大学院生を海外の研究機関等に派遣し、国際的な研究機関におけるリサーチに携わり、異文化の学習環境に触れ、多様な学問文化を経験する機会を提供することにより、グローバルに活躍する次世代の女性研究者を育成することを目的としています。

新型コロナウイルス感染症の拡大が懸念されましたが、海外渡航に関する規制等が大幅に緩和されたことにより、今年度も派遣を実施することができました。

今年度は、下記3名の女子大学院生が採択されました。

### 【採択者】

- ・ 渋谷 文子 (保健学研究科 博士後期課程 保健学専攻)
- ・ 山崎 明日香 (法務研究科 専門職学位課程)
- ・ 仲間 裕夏 (法務研究科 専門職学位課程)



## 附属図書館企画展「うない文庫から SDGs を考える - 女性のキャリア・生き方 -」

琉球大学附属図書館との共催による企画展「うない文庫から SDGs を考える - 女性のキャリア・生き方 -」を、令和4年7月13日(水)から8月31日(水)までの期間、琉球大学附属図書館3階ホールにおいて開催しました。

本企画展は、SDGs の Goal 5「ジェンダー平等を実現しよう」を考えてもらうきっかけとなるよう開催したもので、特に「女性研究者のキャリア」に着目し、本学で活躍する5名の女性教員の研究や取組、ご自身の著書やおすすめ図書等をパネルで紹介しました。また昨年度新設された「うない奨励賞」で最優秀賞を受賞した女子大学院生の研究活動の紹介や、女性のキャリアデザインやSDGsに関連する書籍を数多く展示しました。



## 育児・介護休業法が改正されました

育児・介護休業法改正に伴い、本学でも「出生時育児休業」等に関する規程の改正を行いました。男性や非常勤職員の育児休業がこれまでより取得しやすくなりましたので、積極的な取得をご検討ください。

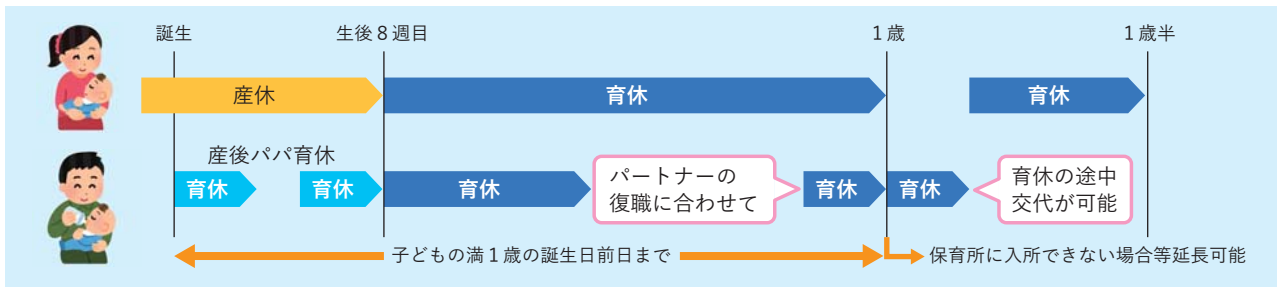
### 改正ポイント① 男性も取得しやすい！

子の出生後8週間以内に4週間まで、2回に分けて柔軟に育児休業が取得できる「出生時育児休業（産後パパ育休）」制度が開始されました。また、育児休業も2回までの分割取得が可能になりました。これにより、仕事の繁忙や、夫婦交代で育児休業を取得したい等の事情に応じて、最大4回に分けて育児休業を取得できるようになりました。

### 改正ポイント② 非常勤職員も取得しやすい！

非常勤職員の育児休業について、従来は「引き続き雇用された期間が1年以上」という取得要件がありましたが、これが撤廃されました。子が1歳6箇月に達する日までに労働契約期間が満了し、更新されないことが明らかでない場合、育児休業を取得していただくことが可能です。

■例えばこのような育児休業の取得が可能になります。



育児休業中の期間は、条件に応じて育児休業給付金の受給や、社会保険料の免除が受けられます。取得を希望される場合は、所属部局等の総務担当係までご相談ください。

## 金城ひろみ学長補佐がジェンダー協働推進室副室長に就任されました

本学の学長補佐(ダイバーシティ・国際連携担当)を務める金城ひろみ先生(人文社会学部 准教授)が、今年度より当室の副室長として参画してくださることとなりました。

2022年度より、本室長の喜納育江教授の後任として学長補佐(ダイバーシティ・国際連携担当)を拝命したご縁で、本室に仲間入りすることになりました。自身の研究フィールドでもある台湾では、ダイバーシティに関する社会認識が先進的でもあるため、室員の皆様とグローバルな視点からも本室の役割を発信していけたら幸いです。



## ジェンダー協働推進室からのお知らせ

### ●令和5年度女性教員海外調査派遣制度 募集延長(R5.1.31〆切)

「令和5年度女性教員海外調査派遣制度」の募集を、**令和5年1月31日まで延長**いたしました。利用をご検討中の先生がおられましたら、まずはジェンダー協働推進室までご相談ください。

### ●令和4年度スキルアップセミナー「英語プレゼンテーション」開催のご案内

国際学会や国際研究グループでの発表、ディスカッションなどの機会に備えて、英語プレゼンテーションのコツはもちろん、準備方法や質疑応答、発表のマナー等を学ぶセミナーを開催します。

令和4年度スキルアップセミナー

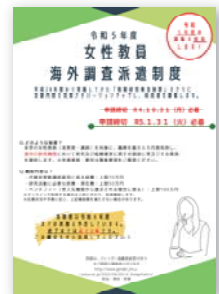
「英語プレゼンテーション -How to Present Your Paper Effectively in English-」

日時：令和5年1月 開催予定

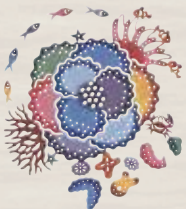
講師：George MacLean 先生(グローバル教育支援機構 教授)

言語：英語 ※英語のレベルは問いません

日時・申込方法等の詳細につきましては、後日改めてジェンダー協働推進室 HPよりご案内いたします。



支援事業やセミナー等の詳細につきましては、随時ジェンダー協働推進室HPで発信しております。



国立大学法人 琉球大学 ジェンダー協働推進室  
Gender Equality Promotion Office, University of the Ryukyus

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1番地 大学本部1階 TEL:098-895-8675

E-mail:gender@acs.u-ryukyu.ac.jp URL:http://www.gender.jim.u-ryukyu.ac.jp/sentan/

